

シュヴェルニー城

見学

ソローニュ・ピエゾワーズ地方に位置するシュヴェルニー城は、ロワールの名高い城館で、1922年に一般公開された最初の私邸の一つです。



領地は6世紀にわたって同じ一族であるユロー家が所有しています。ユロー家は幾代もフランス王に仕えてきた財政担当官僚の一族でした。しかし、この時代シュヴェルニー城は二度、同家の所有から離れました。一度は、16世紀にカトリーヌ・ド・メディシスからシュノンソー城を追放されたディアヌ・ド・ポワチエが、ショーモン城に移る間ここに住みました。2度目は、18世紀に建造者の娘の子孫らが城を手放したことがありました。その後、1825年にヴィブレー侯爵アンヌ＝ヴィクトール・ユローによって再び買い戻されるまで、シュベルニー城は幾度に渡って持ち主が代わりました。

フランス革命時、シュベルニー城は外国大使先導者のジャン・ニコラ・デュフォール・ド・シュヴェルニーに渡りました。また、持ち主の外交手帳のおかげで、シュベルニー城は最悪の事態を逃れることができたのです。

シュベルニー城には現在、ユロー家の末裔であるヴィブレー侯爵夫妻が住んでおり、城館の右翼部にその居宅があります。

シュベルニー城は年間を通じて公開しており、これまでに門を閉ざしたのは、イギリス皇太后の訪問の際(1963年)、ヴィブレー侯爵の葬儀の日(1976年)、現在の持ち主の婚礼の日(1994年11月26日)の3度だけです。

1500年に築かれた当時の建築の中で今日まで残されているのは、付属建物にごく一部あるだけです。1624年から1640年の間に、アンリ・ユロー伯爵と夫人マルグリット・ガイヤール・ド・ラ・モリエール(その組み合わせ頭文字のHとMは見学途中に見ることができます)は新しい城を建造させました。しかし、建造の規模があまりにも大きかったため、夫妻ともども生前にその「愛から生まれた傑作」の完成を見ることはありませんでした。内部装飾は、夫妻の娘であるモングラ侯爵夫

人エリザベートが完成させました。その見事なできばえに、ガストン・ドルレアン(通称グランド・マドモワゼル)はシュベルニー城を「魔法の宮殿」と形容しました。

ブロワ城やシャンボール城も手がけた建築家のジャック・ブジエ(通称ボワイエ)は、この城の建造にブレの石を使いました。シェール渓谷から採れるこの柔らかい石は、ロワール渓谷の石灰華よりもずっと頑丈で、年月とともに白さと堅さが増してくる特徴をもっています。

豪華な室内装飾はブレゾワ・ジャン・モニエの作品です。当時、王妃マリー・デ・メディシスの支持を得ていた彼は、才能を磨くためにイタリアに派遣されました。帰国後、王妃はジャン・モニエをパリのリュクサンブール宮殿に雇いました。その後、彼は故郷のブロワに戻りますが、輝かしい功績を褒め称えられてシュベルニーに呼ばれ、その才能を発揮することとなります。



入って右

食堂



- ❧ ジャン・モニエの手による34の板絵は、17世紀に人気を博したスペイン人セルヴァンテスの小説「ドン・キホーテ」を描いています。
- ❧ ユロー家の武器を形どって彫られた(紺碧色の十字架と赤い太陽)19世紀の純ナラ材の家具、紋章はコルドバ産の革を張った壁に見られます。
- ❧ 羊の骨製キャスターが付いた椅子。
- ❧ 金箔が塗られたネオ・ルネサンス様式の巨大な暖炉、その上にはアンリ4世の胸像が頂かれています。建造者の父は国王の大法官を務めていました。
- ❧ ルイ14世時代の薪載せ台。
- ❧ 18世紀のオランダ製シャンデリアは、銀めっきした純ブロンズで重量が100キロ以上あります。前のテーブルは、継ぎ足し板を使うことで30人の会食者を迎えることができます。

ご存じでしたか？

イギリスの影響を受けて、食堂のテーブルは移動可能なテーブルにすっかりとって代われ、ルイ16世の時代に一般化されました。それ以前は、食事は控えの間でとる習慣がありました。



正面階段

❧ 直線の階段と踊り場をもつ典型的なルイ13世様式(それまでの螺旋階段に代わるもの)には、ヴァル・ド・ロワール地方でのイタリアの影響がうかがえます。

❧ 石段には 花輪、果物、戦士の象徴、芸術シンボルといった、ルイ13世時代に流行した模様パターンが彫刻されています。

❧ 踊り場には、重量が25キロある16世紀のサヴォア型儀式用甲冑が置かれています。



❧ 階上には、6000年以上前の先史時代の木や、200年前にシベリアの氷の中で発見されたセルヴス・メガセロス(ヘラジカの祖先)があります。歴史を語るこの輝かしい発掘品は、科学者で19世紀の鉱物収集家であったヴィブレイ侯爵ポールに贈られました。

ご存じでしたか？

先史時代のこの木は、動物の実際の背丈の高さに架けられています。

階段上 右

私室

❧ 新生児の部屋は母親が新生児をお披露目する場所でした。

❧ 赤い小閨房は、婦人用のサロンとして用いられ、男性用の禁煙室と反対側に位置していました。

❧ 子供部屋には、ナポレオン3世時代の最初の本馬があります。

❧ 新郎新婦の部屋には、ヴィブレイ公爵夫人のウェディングドレス(1994年)が

展示されています。右には化粧室、奥には温度を逃がさないよう銅製でつくられた19世紀のマドレーヌ型の浴槽があります。

❧ 家族の食堂には、一家のために特別に製作された「シュヴェルニーの秋」と呼ばれるの皿とテーブルクロスがあります。

- 大理石の配膳台のワゴンは、熱い皿や冷たい皿を安全に載せることができます。

❧ 小サロンには、王シャルル10世の副官であったヴィブレイのアンヌ=ヴィクトール・ユローの巨大な全身像が飾られています。シャルル10世の肖像は小さな陳列棚の下にあります。

- ナポレオン様式のセイヨウミザクラ製長椅子2点と、ルイ15世様式の肘掛け椅子

ご存じでしたか？

- ナポレオン・ボナパルトのエジプト遠征を祝い、調度品はエジプトに関連した資材が用いられました。

- 扉の前のつい立ては、すきま風を防ぐために置かれました。

- フォークの歯を下向きにテーブルに置くことを決めたのはルイ15世で、それは自分の袖のレースを突き刺すのに嫌気をさしたからでした。また、グラスをテーブルにおくように決めたのは、反儀礼的なシャルル10世でした。というのは、各々の会食者の背後に立った給仕係が、会話に聞き耳を立てるのに絶えられなかったからです。





同じ階の正面



武具の間 (城内で一番広い部屋)

∞ 修復されていない当時そのままの装飾は、やはりジャン・モニエの作品です。暖炉上の「アドニスの死」と題された絵も彼のものとされています。アドニスの死と復活の神話は、植物の一年の生命を象徴するものです。

∞ 17世紀の豪華なゴブランのタピスリーは、当時のままの色が保存されており、トロイア戦争の発端となったパリスによる「美女ヘレネーの誘拐」を描いています。古代ギリシャの有名な逸話を描いたこのシーンは、ホメロスの「イリアスとオデュッセイア」がとりあげています。

∞ ボルドー公爵(のちのシャンボール伯爵)が所有していた小型の甲冑は、彼が4歳の時のもので、後にヴィブレー侯爵に贈られました。

∞ ルイ14世様式の寄せ木張りの床に置かれた、ブラール製作の見事なレジャンス様式肘掛け椅子一式

∞ 部屋には15、16、17世紀のすばらしい武器と甲冑のコレクションが展示されています。

∞ 17世紀の旅行用ケース

∞ アンリ4世が所有したコルドバ革張りのトランク。フランスとナヴァールの武器が刻印されており(鎖と百合の花)、トランクだけで70キロの重量があります。

ご存じでしたか？

領主の城内にあった最も大きな部屋は、19世紀にロマン主義と騎士道趣味を色濃く反映した武器の間に作りかえられました。

王の寝室

❧ この寝室は、王または身分の高い来賓にのみ使われました。

❧ ジャン・モニエは、扉の上部及び天井に、ペルセウスとアンドロメダの神話をもとにした物語を描きました。ペルセウスと翼をもつ馬ペーガソスに命を救わたアンドロメダは、後にペルセウスの妻となります。天井は「イタリア様式」と呼ばれる格天井で、画家は一度地面に板をおいて絵を描いてから天井に貼りつけました。

❧ 板張りには、テアジェーヌとシャリクレのかなわぬ恋の30場面が描かれています。ルネサンス以降、古代ギリシャで人気を博したこの小説は、テサリー王子テアジェーヌと神秘的な少女シャリクレの慎ましい愛の物語です。

❧ 周囲にはすべて、タピスリーのオリジナルコレクションがご覧になれます(寝室に6枚、踊り場に2枚)。これらの作品は、1640年頃、ゴブラン工場の前身であるアトリエ・ド・パリがシモン・ヴェの下絵を用いて製作したもので、オデュッセイアの主人公オデュッセウスの大航海を物語っています。装飾された縁取りが見事です。

❧ 天蓋付きベッドは見かけより大きく、2m×1.60mあります。16世紀に装飾されたペルシャ風の縁取りが施されています。このベッドはアンリ4世がかつての城を訪れた際に使われました。

❧ アンリ3世様式の祈祷台、ルイ13世様式の椅子2脚、及びルイ14世様式の肘掛け椅子一式(オビュソンのタピスリー張り)。



ご存じでしたか？

この時代は、人々は座ったまま睡眠をとっていました。というのは、寝る姿勢は死者にのみ限られ、また舌を飲み込むことも恐れたためでした。天蓋とタピスリーは、熱を逃がさないためです。ベッドは裕福さをひけらかすための象徴でした。ベッドは壇の上に置かれたが、それは存在を誇示させるためと湿気を防ぐためです。





階段を降りて右へ



玄関の広間

☞ ダイニングテーブルの上方には、トゥニエの下絵による「漁師の帰還」を描いた17世紀のフランドル地方のタピスリーがあります。

☞ ヴィブローのユロー家の家系図。その下は、現在の持ち主であるヴィブロー侯爵と夫人コンスタンス・バルバ・デュ・クロゼルの紋章。

ご存じでしたか？

そもそも爵位は階級ではなく、固有の職務に相当するものでした。

大サロン

☞ 天井の装飾は19世紀に修復されました。

☞ 左側の2つの窓の間は、国王アンリ3世とアンリ4世に仕えた大法官で、城の建造者の父であるシュヴェルニー伯爵フィリップ・ユロー。

☞ その右は、夫人のアンヌ・ド・トゥー。

☞ 正面は、城の建造者の娘エリザベスとその夫モングラ伯爵。

☞ 暖炉の上方は、夫妻の義理の娘でシュヴェルニー伯爵夫人のマリー・ジョアンヌ・ドラ・カール・ソムリー。アンヌ・ドートリッシュの宮廷画家ミニャール作によるの肖像画。

☞ 扉の上方はガストン・ドルレアン(左)、及び彼の娘で通称「グランド・マドモワゼル」と呼ばれたモンパンシエ公爵夫人(右)。反対側、国王ルイ13世(左)と妃アンヌ・ドートリッシュ(右)。

☞ 鏡の両側には、傑出した2枚の肖像画：ルネサンスの偉大なイタリア人画家チチアン作とされるコーム・ド・メディシス。並びにラファエルのアトリエ作品によるジャンヌ・ダラゴン。

☞ 王妃マリー=アントワネットの家具職人シュトッケル製作のルイ16世様式のテーブル

☞ オビュッソンのタピスリーを張った当時のままの肘掛け椅子と長椅子



ご存じでしたか？

椅子の臀部および背もたれの贅沢な装飾は、金と銀めっきを施した銅製の大きな釘で木の骨組みに直接固定されています。装飾はクッションの役割をはたしています。



直進する

回廊

回廊の奥、扉の上には、国王フランソワ1世に仕えた高名な画家**フランソワ・クルエ**による3枚の肖像画(フィリップ・ユローと彼の妻、弟)があります。

壁の左側、窓の間：

アンリ4世の母ジャンヌ・ダルベール、**ミゲル・オニャーテ**作。

現在の持ち主の祖先が、アメリカ独立戦争時代、ラファイエットとロシャンボーとともに戦ったことを示す、**ジョージ・ワシントン**の署名が入った実物の文書。

幾種類もの大理石を使用したテーブル。

右側：

- 国王ルイ14世に重宝された肖像画家**リゴー**作の4枚の肖像画：自画像、ダルリュス、ドラポルト、トラピスト修道会の有名な改革派ランセ神父。

- 祝典用の衣装を着た国王ルイ16世の壮大な肖像画。

- 国王ルイ15世とルイ16世に仕えた家具職人**リースネール**製作の小タンス。タンスはもともとルイ16世様式。



ご存じでしたか？

ルイ16世様式の家具は、曲線を廃して自然や庭園にゆだね、直線を重視した形になっています。

肖像画の広間

先祖代々の肖像画、そのうちヴィブレー侯爵を描いた18世紀の美しいパステル画は、**モーリス・カンタン・ド・ラ・トゥール**作といわれています。

シュリヒティッヒの証印の入るルイ15世様式のタンス。



ご存じでしたか？

ユベール・ロベールは、イタリアで12年間フラゴナールとともに勉強し、後にトリアノンでマリー=アントワネットのもとに働きました。フランス革命では彼はギロチンを逃れました。なぜなら、同姓同名のもう一人のユベール・ロベールが誤って代わりに処刑されたためです。

図書室

フランス第一帝政様式の机。ナポレオン1世の主要納入者ジャコブの検印入り。

全巻がそろった2000冊の蔵書。



ご存じでしたか？

フランスの職人を外国のライバルから守るために、1741年に検印が義務化されました。



タピスリーの広間

庶民画で有名なフランドルの画家ダヴィド・トゥニエ・ル・ジュヌヌの下絵をもとに織られたフランドルのタピスリー5点。

摂政時代の肘掛け椅子

傑出した家具2点：

- ルイ14世時代の**ブル・スタイル**のタンス。ニコラ・サジョ作で、赤く塗った亀の甲模様の寄せ木細工、真鍮と木を使用。衣装箱に代わってタンスを発明したのは、アンドレ＝シャルル・ブルだといわれています。

- カフィエリによってブロンズ彫金されたルイ15世時代の**大時計**。現在でも動いており、時間・分・秒のほかに、日付けや月相を表示します。

ご存じでしたか？

この大時計が標準時間を示し、城内にある振り子時計や置き時計はそれに合わされました。



城の外へ

外部

∞ オランジュリーに向いた北正面は、上塗りした壁とコーナーに切石を使用したルイ13世様式として、最も完成した形です。



∞ シュヴェルニー城で最も有名な正面(南)は、ルネッサンス以後流行った古代風の彫刻を施したローマ人の胸像で飾られています。パリのリュクサンブール宮殿に着想を得て作りました。両翼にドームを頂いた大きな棟を従え、石を直線に積み上げた装飾(切り石積み仕上げ)を用いた建築は当時斬新なものでしたが、以後フランスの古典的建築様式となりました。

ご存じでしたか？

ヘルジェはシュヴェルニー城をモデルに、漫画史上最も有名なムーランサール城を創作しました。

師弟の庭

2006年以降、城とオランジュリーの間には、装飾を施した新しい庭が広がっています。かつてフランス式庭園が占めていた場所を、現代的な構想で作り替えました。当時の建築も若干残されています。この庭園は、幾何学的構造とフランス式花壇によるフランス式古典的要素と、庭園に向けて景観美を追究した英国式要素の両面を兼ね備えています。

ご存じでしたか？
15,000本の球根が
植えられています。



オランジュリー

18世紀のオランジュリーは、冬期間オレンジ用の温室として使われました。第2次世界大戦中、国有調度品の一部がここに移されましたが、その中には有名なモナリザの絵もあったと言われます。1979年に全面改修され、現在では会議、セミナー、結婚式会場として利用されています。

ご存じでしたか？
一番最初のオレンジ
は、スペインからアン
ヌ・ド・ブルターニュの
所有するブロワの庭
園に持ち込まれたと
言われます。

大庭園

この城の前には、入念に手入れされた芝生が一面に敷かれ、その前には、シナノキ、セコイアオ



スギ、ヒマラヤスギの品種等、見事な樹木が植えられた英国風庭園が広がっています。ハイシーズンには、船や電気自動車で森林公園内を見学することができます。



犬舎のほうへ

犬舎

☞ 犬舎は狩猟の中心舞台でした。犬舎には約100匹のフランセ・トリコロールが飼われ、それぞれの猟犬の右脇原にはヴィブレーのVのアルファベットが刈り込まれています。

ご存じでしたか？

この犬舎は環境法典、田園法典、公衆衛生法典の称号を得ています。



トロフィーの広間

☞ ここには、シュヴェルニーチームが獲得した輝かしい勝利のトロフィーが展示されています。巨大な暖炉の正面には、シャルトル工房の巨匠ジャック・ロワール製作の現代的なステンドグラスがそびえます。続く10点の絵は、猟犬狩猟の様々なシーンを示しています。この部屋はレセプションルームとしても利用されます。





菜園

菜園はあたかも花瓶のごとく、城に花をそえています。とりどりの花と多彩な野菜が色鮮やかに調和し、野外にブーケを作り出しています。多色の資材と組み合わせることで現代的に作られました。

付属建物

ラウル・ユローの建造当時のオリジナルのごく一部分が、付属建物のルネサンス部分に見ることができます。かつてと同じように、今でも領地の整備と管理に利用されています。11世紀の伝統的な鳩舎であるラ・フェイ(昔の領主権のマーク)は、16世紀に手直しされました。今日では、貯水塔に改造され菜園の水まきに利用されています。



ご存じでしたか？

城は年内無休で開かれています。領地には約40人がフルタイムで雇用されています。